

子どもには日本語を
プレゼント放っておいても
子は育つは、半分こそ、

私には成人した子どもが3人います。大学病院で米留学時代が子育て時代でした。スポーツ好きで成績の良い子に、世の親と同じ思いでした。忙しい仕事の合間に、積み木・カルタ・百人一首・お相撲・野球・スキー・車の中ではしりとりです。絵本は、私が1行読んで子どもに反復させ、1ページ読んだら何が書いてあったかを聞きました。上の2人が語学に優れているのはこのせいかなあと思うことがありますが。しかし、発達について知れば知るほど、こうすれば良かった、ああすれば良かった、など反省はいくらでもあります。子育てはどれだけ手をかけてもこれで十分というわけではありません。でも心配しないでください。愛情があれば、子どもはお父さんとお母さんが大好きですので、多少の間違いは許してくれます。

豊かな日本語を
身につけること

近年、英語熱がさかんです。英語は世界公用語で重要ですが考える力がなければ役に立ちません。私たちは母国語(日本語)を考えます。言葉の遅れなどでクリニックを受診されるお母さんに、次のようにお話しします。「日本人は英語を話しません。赤ちゃんの時から英語を聴くことはないからです。繰り返し日本語を耳にすることが、日本語(言葉)を発達させるのです。母親が語りかけても、子どもが耳を傾けなかったら言葉を聞いたことにはなりません。子どもの聴覚中枢に言葉が届いて、それまでに理解した言葉と照らし合わせて理解されなければ聴いたことになりません」。藤原正彦氏は、その著書「祖国は国語」で、国語や読書が豊かな情緒や論理的な考え方、豊富な語彙を形成し、将来の大局観、判断力を育てると述べています。

ことばは、子どもへの最良の贈り物
「語りかけ育兒」

サリーワード書

幼児の「聞く力」と「注意を向ける力」を基礎とした「語りかけ育兒」は子どもの言葉を劇的に伸ばすことをサリーワードは見出ししました。その要点は①テレビなど気を散らす雑音のない空間(雑音は赤ちゃんが聞きたい音に集中する力の育ちを妨げる。部屋が静かなことが大事)②赤ちゃんだけでなく目と目を合わせて静かに語りかける(視線を合わせる)③赤ちゃんの注意しているものに気づいてあげる(共同注意)④簡単な繰り返し言葉遊び(わらべ歌など音韻意識)⑤言葉を聞き取る力を育てる言葉⑥ダメという否定語は使わない⑦テレビは1日30分までの1日30分しっかり向かい合う。子どもがこの時期にどのくらい話しかけてもらったか、どれだけ絵本を読んでもらったかが将来の言葉の発達に関係してきます。

今回の先生



院長 平谷 美智夫先生

平谷こども発達
クリニック小児科・アレルギー科
精神科(児童)福岡市北四ツ居2丁目1409
TEL.0776-54-9600※診療時間など詳しくは
ホームページをご覧ください。語りかけ育兒は
発達障害の療育と同じ

クリニックには多くの発達障害のお子さんが相談に来られます。ADHDには注意をそぐ雑音などのない環境が大切、自閉症スペクトラム障害は視線が合わず共同注意が弱い、言葉聞き取る力である音韻意識の弱い子は読字障害(ディスレクシアと呼び)になりやすい。語りかけ育兒は発達障害の療育そのものです。

